

「フアニーたい焼きトム♪♪ チーズケーキ」

第一幕…新しいアイデアの発端（約20分）

シーン1…たい焼きトムの朝

店内、早朝。魚住が掃除をしている。店内の雰囲気は静かで、まったくとした空気が流れている。そこにトムが登場し、元気よく挨拶する。

トム

（ノリノリで）

「おはよう、魚住！今日も最高の一日が始まったぞ！」

魚住

（少し驚いて、目を擦りながら）

「おはようございます、トムさん…。朝

からそんな元気、どこから出てくるんですか？」

トム

(興奮しながら)

「それは秘密だ！でも、今日は特別な日だぞ！なんと、新しいたい焼きのアイデアがあるんだ！」

魚住

(困惑しながら)

「またですか…。去年の『ナクチポックン』たい焼きのときも、最初はすごく心配だったんですけど、なんとか…。あれ、結局大ヒットしましたよね。」

トム

(にやっと笑いながら)

「それを言うなら、『マトンカレー』たい焼きだって大成功だったじゃないか！」

だから、今回は絶対にうまくいくに決まってる！」

魚住

(少し警戒しながら)

「今回は何ですか…？」

トム

(自信満々で)

「今回は『チーズケーキたい焼き』だ！

驚け！中身はチーズケーキだぞ！」

魚住

(驚いて)

「チーズケーキ…？ それ、たい焼きの中に…？」

トム「そうだ！外はカリッとしたい焼き生地、中はクリームで濃厚なチーズケーキが詰まっている。想像してみて！絶対おいしいって！」

魚住「でも、それって：普通のたい焼きのイメージとは全然違いますよね？みんな、甘いものと塩辛いものを一緒に食べるのに抵抗があるんじゃないですか？」

トム「そんなことはないさ！みんなが驚いてくれるのが楽しいんだ！どうせやるなら、誰も考えたことがないようなものをやるべきだろ！」

魚住「まあ、トムさんが言うなら、やってみるしかないんですね…。でも、私、絶対に心配ですからね！」

### シーン② アイディアの実行

トムと魚住は厨房に向かう。トムはすでに色々な材料を準備して、さっそくチーズケーキたい焼きの実験を始める。魚住は心配そうに見守る。

トム

「見ててくれ、魚住！これは新しい革命だ！みんなが『こんなにおいしい焼きがあるなんて知らなかった！』って言うようになるぞ！」

魚住

「うーん、でも、チーズケーキって：クリームチーズとか使うんですね？それって、たい焼きの生地とどうやってうまく組み合わせるんでしょうか？」

トム

「もちろんだ！でも、ちょっとしたコツがあるんだよ。この生地をフワツとした感じにして、チーズケーキの滑らかさと合わせるんだ。」

魚住

「本当に成功するんでしょうか：？」

トムが自信満々に、そして楽しく作業を続ける中、魚住は何度も心配そうに眉をひそめる。

シーン③：試食ついに、チーズケーキた  
い焼きが完成。トムは興奮しながら魚住  
にそれを差し出す。

トム

「さあ、魚住、これが『チーズケーキた  
い焼き』だ！自信作だぞ！」

魚住

「いや…これ本当に食べて大丈夫なんで  
しょうか？」

トム「もちろん！食べてみればわかるよ！」

魚住は、恐る恐る一口食べる。少し驚き  
ながらも、意外にもおいしいと感じる。

魚住

「お…おいしい…！意外と、しっかりし

たチーズケーキの味がして、甘さもちょうど良いですね。」

トム

「でしょ？これが新しい『たい焼き革命』だよ！おいしさも見た目も完璧！」

魚住

「でも、本当にこれが売れるんでしょうか……？」

トム

「心配するな！これは絶対にうける！新しいものを食べたくてしょうがないお客さんがたくさんいるんだ！」

第2幕… 試食と初期の反応（約20分）

… 試食会の開催店内、トムは常連客を集めて、チーズケーキたい焼きの試食会を開く。魚住は少し緊張しながら準備を手伝う。

常連客 ▶

「おい、トム、何だこれ？ たい焼きの中にチーズケーキ？」

常連客 B

「本当においしいのか？ そんなの、食べてみないとわからんぞ。」

トム

「食べてみればわかるさ！ これは新しい体験だぞ！ みんなが驚くこと間違いなしだ！」

客たちが一口食べて、しばらく黙っている。緊張が走る。

常連客 A

「ん？ うーん、予想外だ…。これ、うまいな。チーズケーキの甘さがいい感じにたい焼きのしょっぱさと合う！」



常連客 B

「確かに、甘さと塩気が絶妙だな。でも、ちよつと珍しい味だから、最初はびっくりするけど。」

魚住

「でも、みんな食べてくれるかな……。ちよつと甘すぎないですか？」

トム

「大丈夫、魚住！誰だって新しい味に驚くものさ。でも、それが面白いんだよ！」

シーン②：意外な好評

チーズケーキたい焼きは評判になり、予想以上に売れ行きが好調に。お客の反応が次々に届く。

お客 A

「これすごい！たい焼きの形なのに、チ

「ズケーキって、こんな組み合わせ見たことない！」

**お客 B**

「うまい！これ、すごくクリーミーで、でも全然重くない！ついつい食べちゃう！」

**お客 C**

「甘いもの好きな人にはたまらないな。これ、お土産にしても喜ばれるんじゃない？」

魚住は、少しホツとしながらも不安げな表情を見せる。

**魚住**

「でも、こういう『新しいもの』って、結局受け入れられないこともあるんじゃないですか？」

トム

「それがフアニーなところなんだよ！少しでも驚いてもらえれば、成功さ！次のアイディアも温めているから、楽しみにしてくれ！」

## 第3幕…成功と波乱（約20分）

シーン1…思わぬ反響

店内は満席で、チーズケーキたい焼きの注文が殺到。魚住が忙しそうに働居中、トムはお客さんと楽しそうに会話をしている。

お客1

「これは本当に美味しい！他の店じゃ絶対に味わえないよ！」

お客2

「こんな珍しい味、最初はどうかと思っただけど、もうやみつきだよ！」

トムが魚住に向かってウインクを送る。

トム

「見ろよ、魚住！言った通りだろ？みんな新しい味を楽しんでるぞ！」

魚住

「まあ、トムさんの言う通りですね……。でも、まだちょっと心配ですけど。」

その時、店に新たな客が入ってくる。彼らは『チーズケーキみたい焼き』に興味津々の様子。

シーン②：お客の反応

新しい客たちがテーブルに着き、メニューを見ながらトムに声をかける。

客①

「トムさん、何かすごいことをしてるみたいだね！チーズケーキみたい焼きって、聞いたことがないけど、試してみたい！」

トム

「その通り！それこそが『フアニー』たい焼き』の魅力だ！さあ、ぜひ食べてみてくれ！」

客が一口食べ、顔が驚きと喜びに変わる。

客

「わお！これ、予想以上においしい！たい焼きの形をしているけど、まるでチーズケーキみたいだ！」

他のお客たちも次々に試食し、喜びの声を上げる。

客

「これ、本当に美味しい！たい焼きとチーズケーキって、こんなにうまく融合するなんて！」

魚住は笑顔でホッと一息つく。

魚住

「本当に、成功して良かった…。」

シーン…突然の問題

その時、突然店の入り口のドアが開き、  
大きな声が響く。

店員 ▶

「すみません！大変です！近くのレビュー  
サイトで『チーズケーキたい焼き』が  
紹介されて、今、評判が広がってます！  
でも、その記事には…」

トム

「え？何か問題でも？」

店員 ▶

「そのレビュー、すごく好評なんですけど、  
『異常に甘すぎる』というコメントも多  
くて…。お客さんの中には甘さがちよっ  
と強すぎると感じている人もいます！」

魚住が心配そうに駆け寄る。

魚住

「えっ、それって問題じゃないですか？  
みんなが食べるとき、甘すぎて言われ  
たら…。」

トム

「大丈夫だ、魚住。どんな商品にも賛否  
があるのが普通だ。でも、甘さ調整する  
方法はあるさ。」

トムは厨房に走り、即座に試作を始める。

## 第4幕…調整と修正（約15分）

### シーン1…甘さの調整

厨房で、トムはチーズケーキのレシピを  
見直しながら、慎重に甘さを調整してい

る。魚住も横で手伝いながら心配そうに見守る。

魚住

「トムさん、本当にこれでうまくいくんですか？甘さを減らしたら、味が変わっちゃうんじゃないですか？」

トム

「うん、でもこれは必要な調整だよ。少しだけ甘さを控えめにすれば、みんながもっと食べやすくなる。大事なのはバランスだ。」

魚住はしばらく黙って見守り、トムが新しいレシピを完成させると、試しに新しい焼きを作ってみる。

シーン②：もう一度試食



新しいレシピで作ったチーズケーキたい  
焼きが完成。トムと魚住はお客様に提供し、  
再度反応を見守る。

お客Ⅱ

「おお、これだ！甘さがちょうどいい！  
最初はちょっと甘すぎるかなって思った  
けど、これなら食べやすい！」

お客Ⅰ

「うん、これは完璧だね！クリーミーで  
美味しい！」

魚住

「良かった…。これならうまくいきそう  
です。」

トム

「だから言っただろ！ちょっとした調整  
で、みんなが大満足の味になるんだ！」

第5幕：さらなる成功と結末（約20分）

## シーン二：人気爆発

数週間後、店は大盛況。チーズケーキた  
い焼きは大人気商品となり、口コミで広  
がり続けている。トムと魚住は忙しさの  
中でも嬉しそうに働いている。

お客」

（楽しそうに食べながら）

「これ、何度食べても飽きないね！毎日  
食べてもいいくらい！」

お客」

（興奮気味に）

「こんなユニークな味、他じゃ絶対に食  
べられないよ！」

魚住は満足げに笑いながら、注文を取っ  
ている。

魚住

「本当に、トムさんのアイデアはすごいです。」

トム

「いや、君がいてくれるからこそだよ！  
二人三脚でやってきたから、こんな成功  
が待っていたんだ！」

シーン…新しい挑戦

閉店後、トムと魚住は今後のアイデア  
について話している。

トム

「次は何を作ろうか…？もっと新しいも  
のを考えよう！」

魚住

「えっ、もう次のアイデアですか？」

トム

「もちろん！『ファニーたい焼き』の旅

は終わらないからな！次も楽しみにして  
ろよ！」

魚住

「また新しい挑戦が始まるんですね…。」

二人は笑い合いながら、店の片づけを始  
める。夜の街灯が静かに照らす中、次の  
冒険が待っていることを感じさせるシー  
ンで幕を閉じる。

【END】